

浜四郷秋冬ニンジン栽培マニュアル・栽培暦(令和6年版)

JA 福井県営農経済センター
福井県坂井農林総合事務所
坂井地区園芸タウン推進協議会

作型	品 種	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	重 点 目 標
ハウス栽培 露地栽培	彩誉 (フジシード) 等	・露地						◎播種期を守る 露地 8/10~8/25 ◎ 本葉4枚までは十分な灌水を! ◎適正防除の徹底 ◎一斉収穫をする ◎追肥は3回(必要に応じて4回)
		・ハウス						

項目 作 業

圃場の準備

土づくり…ニンジンの連作は、しみ腐病、センチュウ等の病害虫が増えるので輪作する。
必ず堆肥を施用し土づくりを行う。
土壌酸度の矯正…ラッキョウ後、休耕地はpHが低いので、石灰を100kg/10a以上投入する。(適正pH6.0~6.5)
深 耕…ていねいに深耕して、透水性をよくする。
線 虫 対 策…作付け前に、土壌消毒または粒剤等でセンチュウ対策を行う。
飛砂対策の徹底…圃場周縁および圃場内に防風用の緑肥(クロタラリア、ソルゴー)を作付けするか、防風ネットを設置する。
※ 前作に白絹病、軟腐病が発生した圃場は避ける。

施 肥

- ・ニンジン単収は地力と関係するので、堆肥2~3t/10aを必ず投入する。(堆肥投入は播種の2か月前までに済ませておく)
- ・堆肥が投入できない場合は、地力向上としてハイフテックを必ず施用する。
- ・土づくり資材、石灰は播種10日前までに、元肥は7日前までに施用する。(肥料吸収促進、根部障害回避)

① 【緑肥+有機質肥料】施用による化学肥料1割減体系

堆肥・肥料名	元肥体系	追肥体系			備考
		追肥(kg)			
堆 肥	2,000 kg	1回	2回	3回	1回目追肥 播種後 20~30日
ハイフテック	200 kg				
リンスター	20 kg				2回目追肥 播種後 40~50日
エコレット	95 kg	45	45	40	3回目追肥 播種後 50日

・エコレットを施用すると化成肥料に比べて葉色が薄い傾向だが、肥効が持続するので、施用しすぎないように注意する。

② 乗用施肥機を用いた局所施肥による散布時間および散布量の1割減体系

堆肥・肥料名	元肥体系	追肥体系			備考
		追肥(kg)			
堆 肥	2,000 kg	1回	2回	3回	1回目追肥 播種後 20~30日
ハイフテック	200 kg				
リンスター	20 kg				2回目追肥 播種後 40~50日
固形33号	140 kg	40	40	30	3回目追肥 播種後 50日

播 種

- ・週間天気予報などを参考に**降雨のあとすぐに播種できるように準備する。土壌水分が十分にある状態で播種すること!**
- ・播種は8月中旬から8月25日まで(機械収穫の限界)
- ・12月上旬は洗浄選果施設が込み合う事が予想されますので、播種を数回に分けて収穫時期を分散する。
- ・株間: 8~10cm(播種が遅い作型では10cm) 条間20~25cm
所要種子量は10aあたり4~5万粒を目安とする。播種深さは1~1.5cmを目安とする。
- ・灌水設備のある圃場では、灌水チューブを使用し、本葉が出るまで積極的に灌水すると発芽揃いが良くなる。

管 理

除草剤散布

- ・播種後、粒剤を散布。
- ・発芽後に雑草が生えてきたら、再び除草剤散布を行う。

【ドローン利用による除草剤散布の省力化】

- ・散布時間は手散布と比較して1/5となる。
- ・除草効果については手散布と同等。
- ・このため、除草剤をドローンにて散布することで作業時間短縮化の他、除草効果も十分確保できる。

表 除草剤のドローン散布効果

区名	乾燥重 (g/m ²)		薬害
	1年生広葉	メヒシバ	
ドローン区	0.10	0.02	無
手散布区	0.19	0.02	無



写真 ドローンでの除草剤散布の様子

灌水管理

- ・発芽するまでの約2週間は、土壌が水分を保つように灌水する。
- ・発芽後~3葉期までは、毎日灌水。6葉期頃までの乾燥は裂根の原因となるので、乾燥しすぎには注意。
- ・本葉10枚以降は、軟腐防止のため、天気を見て灌水するようにする。

追肥の省力化

- ・乗用型の施肥機で施用することにより、散布時間と施肥量が1割削減できる。
- ・本葉4~7枚の時期に一番肥料がほしいので、この時期に肥切れしないように、3回追肥する。(施肥例を参考に)

病害虫防除

- ・強風後は、すぐに殺菌剤を散布し、病虫害防除に努める。

収 穫	<ul style="list-style-type: none">• 適期収穫を徹底する。（播種後 90~100日頃に試し掘りをして、裂根しないように収穫すること）• 一斉収穫を基本とし、よりこぎしない。（品質低下防止）• 収穫は早朝の外気温の低いときに行い、日中の外気温の高いときは行わない。
	<p style="text-align: center;">※生産管理日誌は必ず記帳しましょう。農薬は適正に使用しましょう。</p>